



直方南小学校だより

令和7年6月30日(月)
直方市立直方南小学校
No.14 校長 塩田 朋久

直方南小学校のあゆみ⑦ ～戦時下の南小～

1931(S6)
満州事変

1941年(昭和16年)に日本軍がハワイ真珠湾を攻撃して始まった太平洋戦争。日本全国民、いや、世界の多くの人々が戦争の渦に巻き込まれていきました。

1932(S7)
5.15 事件

本校はこの年、国民学校令施行により、「直方南国民学校」と校名が変わりました。どんな、教育になったかというところ・・・(100年史より抜粋)

1933(S8)
国際連盟脱退

小学校における強い国民意識の強化育成、軍国主義の育成、皇国民たるべき基礎的錬成、そして「戦争完遂に資する」児童の修練道場と化してしまっただけで、やがて、引き続き戦争による物資の欠乏、国民生活の窮乏のため教科書から色刷りが廃止された。児童の楽しい教科書もうばってしまった。学用品も窮乏し、児童たちは「ほしがりません勝つまでは」「不自由を常と思えば不足なし」「米英撃滅」の押し付け標語を覚えさせられながら、勤労奉仕や食糧増産運動に狩り出され、また、軍人援護のいろいろな活動に動員されていったのである。

1936(S11)
2.26 事件

1937(S12)
日中戦争

1938(S13)
国家総動員法公布

1939(S14)
第二次世界大戦

1941(S16)
真珠湾攻撃
太平洋戦争へ

昭和20年、敗戦の兆し濃厚となり、日本全土都市空襲、爆撃が始まる。3月、「決戦教育措置要項」が出され、初等科以外の学業一切



敵を倒す訓練 (直方市史)

停止となる。5月22日「戦時教育令」が発せられる。やがて、食糧配給も底をつき、雑食にあえぎつつも竹槍をしごきしごき焦土に教授を続けた先生たちも、ついになす所を知らなかった。昭和20年8月15日。ついに終戦の詔、ラジオから伝わる。ああ無惨、悲惨の敗戦。滂沱(ぼうだ)放心なす所なし。

1945(S20)
終戦

昭和24年卒業の女性の回想録です。

戦時中、授業はある事はありませんでしたが、警戒警報がよう出りましたので、

すぐに待避壕に入りました。「5分組」というのがあって、通学5分以内の子

供は走って自宅に帰りました。それで教室での授業は余りできませんでした。運動靴は学校くじ引きで配給でした。なかなか当たらないので、父ちゃんがタイヤに紐を通した代用靴をはいて行きました。大半の人ははだしてました。運動場も芋畑と防空壕ばかりでしたからあんまり走り廻られませんでした。もう一つ思い出すのは「馬糞拾い」です。馬糞を拾って集めて学校の芋なんかの増産に役立てるのでした。荷馬車の後をつけて馬が糞をするとほかほかの湯気の出よるとを「えぶ」に集めて学校に持ち帰りました。敗戦後は、マッカーサー指令ちうて真っ黒にぬりつぶした教科書で勉強せにやならんで悲しうございました・・・。 80年前、想像を絶する時代です。私は読んで書いて胸が苦しくなりました。